

引用番号	タイトル	著者	情報源	誌名	発行年	巻	号	ページ	引用Chapter
021 *	Effect of training and a structured office practice on physician-delivered nutrition counseling: the Worcester-Area Trial for Counseling in Hyperlipidemia (WATCH)	Ockene IS, Hebert JR, Ockene JK, Merriam PA, Hurley TG, Saperia GM	PubMed	Am J Prev Med	1996	12	4	252-8	Chapter6. The Impact of Interventions
022	Changes in the Nature and Balance of Television Food Advertising to Children: A Review of HFSS Advertising Restrictions	Ofcom,	Web Page	2008; Available from: www.ofcom.org.uk/research/tv/reports/hfssdec08.	2008				Chapter6. The Impact of Interventions
023 *	Changing fruit and vegetable consumption among children: the 5-a-Day Power Plus program in St. Paul, Minnesota	Perry CL, Bishop DB, Taylor G, Murray DM, Mays RW, Dudovitz BS, Smyth M, Story M	PubMed	Am J Public Health	1998	88	4	603-9	Chapter6. The Impact of Interventions
024 *	Food prices and obesity: evidence and policy implications for taxes and subsidies	Powell LM, Chaloupka FJ	PubMed	Milbank Q	2009	87	1	229-57	Chapter6. The Impact of Interventions
025 *	Nutritional counselling in general practice: a cost effective analysis	Pritchard DA, Hyndman J, Taba F	PubMed	J Epidemiol Community Health	1999	53	5	311-6	Chapter6. The Impact of Interventions
026 *	Increasing the fruit and vegetable consumption of fourth-graders: results from the high 5 project	Reynolds KD, Franklin FA, Binkley D, Raczynski JM, Harrington KF, Kirk KA, Person S	PubMed	Prev Med	2000	30	4	309-19	Chapter6. The Impact of Interventions
027 *	The Prevention of Lifestyle-Related Chronic Diseases: An Economic Framework	Sassi F, J. Hurst	Report	OECD Health Working Paper, No. 32. Paris: OECD Publishing; 2008	2008				Chapter6. The Impact of Interventions
028 *	Improving Lifestyles, Tackling Obesity: The Health and Economic Impact of Prevention Strategies	Sassi F, Cecchini, J. Lauer, D. Chisholm	Report	OECD Health Working Paper No. 48. Paris: OECD Publishing; 2009	2009				Chapter6. The Impact of Interventions
029	WHO Framework Convention on Tobacco Control: development of an evidence based global public health treaty	Shibuya K, Ciecierski C, Guindon E, Bettcher DW, Evans DB, Murray CJ	PubMed	Bmj	2003	327	7407	154-7	Chapter6. The Impact of Interventions
030	Work site-based cancer prevention: primary results from the Working Well Trial	Sorensen G, Thompson B, Glanz K, Feng Z, Kinne S, DiClemente C, Emmons K, Heimendinger J, Probart C, Lichtenstein E	PubMed	Am J Public Health	1996	86	7	939-47	Chapter6. The Impact of Interventions
031	The effects of a health promotion-health protection intervention on behavior change: the WellWorks Study	Sorensen G, Stoddard A, Hunt MK, Hebert JR, Ockene JK, Avrunin JS, Himmelstein J, Hammond SK	PubMed	Am J Public Health	1998	88	11	1685-90	Chapter6. The Impact of Interventions
032	Increasing fruit and vegetable consumption through worksites and families in the treatwell 5-a-day study	Sorensen G, Stoddard A, Peterson K, Cohen N, Hunt MK, Stein E, Palombo R, Lederman R	PubMed	Am J Public Health	1999	89	1	54-60	Chapter6. The Impact of Interventions
033	Making Choices in Health: WHO Guide to Cost-Effectiveness Analysis	Tan Torres T,	Book	Geneva: World Health Organisation; 2003	2003				Chapter6. The Impact of Interventions
034	Five-hundred life-saving interventions and their cost-effectiveness	Tengs TO, Adams ME, Pliskin JS, Safran DG, Siegel JE, Weinstein MC, Graham JD	PubMed	Risk Anal	1995	15	3	369-90	Chapter6. The Impact of Interventions
035 *	Do nutrition labels improve dietary outcomes?	Variyam JN	PubMed	Health Econ	2008	17	6	695-708	Chapter6. The Impact of Interventions
036 *	Nutrition Labels and Obesity	Variyam JN, J. Cawley	Report	NBER Working Paper No. 11956. Cambridge, MA: 2006	2006				Chapter6. The Impact of Interventions
037	Some Strategies to Reduce Risk	WHO,	Report	World Health Report 2002: Reducing Risks, Promoting Health Life, Chapter 5. Geneva: World Health Organisation; 2002	2002			101-44	Chapter6. The Impact of Interventions
038	Intervention on Diet and Physical Activity: What Works, 2009	WHO,	Book	Geneva: World Health Organisation; 2009	2009				Chapter6. The Impact of Interventions

\*文献構造化抄録を本報告書に収載，\*\*翻訳資料を本報告書に収載

*Obesity and the Economics of Prevention: FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (001)

文献管理番号	FNF00179
タイトル	The Effects of a Fat Tax on French Households' Purchases: A Nutritional Approach
訳タイトル	フランスにおける家計の購入行動に対する肥満税の効果: 栄養学的アプローチ
著者	Allais O, Bertail P, Nichéle V
出典	American Journal of Agricultural Economics, 2008 Vol. 92 No. 1 pp. 228-45
言語	英語
学会名	
キーワード	Fat Tax
抄録	あり
PDF	

作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	比佐章一
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	肥満税がフランス家計の消費行動に与える影響に関する分析
研究デザイン	
エビデンスレベル	
対照患者(疾患/病態)	フランスの所得階層・地域別集計データ
サンプルサイズ	72(1996-2001年)×24(所得階層・地域別)
セッティング	AI Demand Model
セッティング(その他)	
追跡率	
予知因子:介入/要因 暴露と対象	
エンドポイント (アウトカム)	
主な結果と結論	フランスの家計データによると、肥満税の価格弾力性が小さいことが判明した。また肥満税を課すことで税収が増加するが、逆進的な効果を持つ。
効果指数値(95%信用区間) 95%CI リスク比 統計学的 解析法	
コメント	日本の家計調査でも、地域別・所得階層別のデータが取れることから、同様の研究を行うことは可能。しかもこの研究は、ある一定の条件のもとで、消費財の代替性・補完性を考慮することができることから、分析がより精緻になることが期待される。
引用NO	001

*Obesity and the Economics of Prevention:FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (002)

文献管理番号	FNF00110
タイトル	Randomized trial testing the effect of peer education at increasing fruit and vegetable
訳タイトル	
著者	Buller DB, Morrill C, Taren D, Aickin M, Sennott-Miller L, Buller MK, Larkey L, Alatorre C, Wentzel TM
出典	J Natl Cancer Inst
言語	
学会名	
キーワード	peer education, fruit and vegetable
抄録	あり
PDF	

作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	森川 希
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	社会経済的弱者の多民族労働者を対象に果物・野菜の摂取量増加を目的としたピア教育プログラムの有効性を評価する。
研究デザイン	ランダム化比較試験
エビデンスレベル	
対照患者(疾患/病態)	アリゾナの10ヶ所の公共雇用施設で働くブルーカラーの労働者。
サンプルサイズ	2091人がベースライン調査を完了した。その後の中間調査を完了し、ペアリングと無作為化の結果、41組のマッチンググループに含まれる905人(ピア教育介入群459人、通常介入群446人)が、調査対象集団となった。
セッティング	対象の募集およびベースライン調査は1993年5月～1994年2月にかけて行われ、全員に対する通常の5-a-dayプログラムは1995年より開始された。
セッティング(その他)	
追跡率	
予知因子:介入/要因 暴露と対象	ピア教育介入群では、職場の同僚が指揮をとり9カ月のグループ教育を実施した。内容は、予め16時間のトレーニングプログラムに参加したピア教育者が中心となり毎週2時間、果物・野菜摂取についてディスカッションしたり、説得的コミュニケーションにより、日常生活の中で意識的に果物・野菜について会話を取り入れ、個別面談やグループ会話、スタッフミーティング時のプレゼンテーション等で果物・野菜摂取のプロモーションを実施した。 対照群には、通常の5-a-dayプログラム(メール、ポスター、カフェテリアでのプロモーション、ゲストスピーカーによるセッション)のみを行なった。
エンドポイント (アウトカム)	介入前・終了時・6か月後にプログラムの認識、知識、態度、果物・野菜の摂取量(24時間思い出し法、食物摂取頻度調査)を評価した。
主な結果と結論	社会経済的弱者の多民族労働者に対し、ピア教育プログラムによって果物・野菜の摂取量増加を促すことは効果的と考えられる。
効果指数値(95%信用区間) リスク比 95%CI 統計学的 解析法	重回帰分析によって求めた介入効果は、ベースラインから終了時の果物・野菜摂取増加量(サービング数/日±標準偏差)0.77±0.17(24時間思い出し法)、0.46±0.14(食物摂取頻度調査) 果物摂取増加量(サービング数/日±標準偏差)0.41±0.09(24時間思い出し法)、0.26±0.06(食物摂取頻度調査) 野菜摂取増加量(サービング数/日±標準偏差)0.26±0.15(24時間思い出し法)、0.19±0.09(食物摂取頻度調査)
コメント	
引用NO	C6-2

*Obesity and the Economics of Prevention:FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (005)

文献管理番号	FNF00180
タイトル	Fast-Food Restaurant Advertising on Television and its Influence on Childhood Obesity
訳タイトル	
著者	Chou S, Rasha I, Grossman M
出典	Journal of Law and Economics
言語	
学会名	
キーワード	Fast-Food Restaurant CM
抄録	あり
PDF	

作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	森川 希
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	ファーストフードレストランのテレビ広告が、子どもと若者の過体重に及ぼす影響を評価する。
研究デザイン	
エビデンスレベル	
対照患者(疾患/病態)	
サンプルサイズ	3-11歳6034人年、12-18歳7069人年
セッティング	3-11歳についてはChild-YOung Adult National Longtudinal Survey of Youth(NLSY79)、12-18歳についてはNational Longtudinal Survey of Youth(NLSY97) 調査結果3年分を用い、テレビ視聴時間を調査した。ファーストフードのテレビ広告については、米国最大の広告トラッキングサービスであるCompetitive Media Reporting(CMR)よりデータ提供を受けた。
セッティング(その他)	
追跡率	
予知因子:介入/要因 暴露と対象	
エンドポイント (アウトカム)	BMIまたは過体重を独立変数とした回帰モデルで評価した。
主な結果と結論	テレビ視聴時間とBMIまたは過体重の間に有意な正の相関が観察された(若年女性の過体重を除く)。ファーストフード広告の視聴時間が週に30分増えると3-11歳男子では2.2%、女子では1.6%過体重になる可能性が増え、人口あたり過体重の人数にすると男子で15%、女子で12%増加する。同様に12-18歳では男子2.5%、女子0.6%過体重の可能性が増加し、人口あたりではそれぞれ17%と4%増加すると考えられる。ファーストフードレストランの広告規制により、3-11歳の過体重を18%まで、12-18歳を14%まで減少させられると考えられる。
効果指数値(95%信用区間) 95%CI リスク比 統計学的 解析法	
コメント	
引用NO	C6-5

*Obesity and the Economics of Prevention: FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (007)

文献管理番号	FNF00114
タイトル	Public reaction to Victoria's "2 Fruit 'n' 5 Veg Every Day" campaign and reported consumption of fruit and vegetables
訳タイトル	
著者	Dixon H, Borland R, Segan C, Stafford H, Sindall C
出典	Prev Med
言語	
学会名	
キーワード	"2 Fruit 'n' 5 Veg Every Day" campaign, mass media, fruit and vegetables, health promotion, diet, nutrition, reported consumption, sociodemographic
抄録	あり
PDF	

作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	森川 希
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	ヴィクトリア州における"2 Fruit 'n' 5 Veg Every Day"キャンペーンの認知度、および同キャンペーンによる食生活に関する意識の変化と野菜・果物の摂取量の変化を検討する。
研究デザイン	前後比較
エビデンスレベル	
対照患者(疾患/病態)	
サンプルサイズ	2044人(4年間)。
セッティング	キャンペーンは、食に関わる態度・行動の改善及び食環境整備により、人々の野菜・果物の摂取量増加を目的として、1992年から1995年に約20日間ずつ行われた。 本研究では、毎年のキャンペーン期間後に、20歳以上のおよそ500人に対しキャンペーンの認知度および食事に関する電話インタビュー調査を行なった。
セッティング(その他)	
追跡率	
予知因子:介入/要因 暴露と対象	キャンペーンに用いられた媒体は、テレビコマーシャルが主で、ラジオや印刷媒体が補助的に用いられ、"2 Fruit 'n' 5 Veg Every Day"スローガンを宣伝した。
エンドポイント (アウトカム)	"2 Fruit 'n' 5 Veg Every Day"キャンペーンの認知度、食習慣、食に関する意識、野菜・果物摂取量
主な結果と結論	キャンペーン媒体全体の認知度は2年目にピーク(70%)となり、3年目から減少した。 対象者が考えている摂取すべき野菜・果物の摂取量と実際の摂取量の推移を検討したところ、1年目から2年目はいずれも有意な増加がみられたが、2年目以降は横ばいであった。 少ない予算のマスメディアキャンペーンで大きな成果が出ることが示唆されたが、継続的なものにするには、数年にわたるキャンペーンへの投資が必要である。
効果指数値(95%信用区間) リスク比 95%CI 統計学的 解析法	果物摂取量(平均サービング数±標準偏差)1年目1.53±10.8、2年目1.71±1.26、3年目1.69±1.16、4年目1.67±1.15 野菜摂取量(平均サービング数±標準偏差)1年目2.65±1.51、2年目3.10±1.68、3年目3.01±1.65、4年目3.00±1.57
コメント	
引用NO	C6-7

*Obesity and the Economics of Prevention: FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (009)

文献管理番号	FNF00181
タイトル	Studying the Studies: An Overview of Recent Research into Taxation Operating Costs
訳タイトル	税の作業費用に関する、最近の研究
著者	Evans C
出典	eJournal of Tax Research (2003), Vol. 1, No. 1, pp. 64-92
言語	英語
学会名	
キーワード	Taxation
抄録	あり
PDF	

作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	比佐章一
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	税の徴収・管理を行う際のコストがどの程度かかるかを、税の種類に応じて調査したサーベイ論文
研究デザイン	
エビデンスレベル	
対照患者(疾患/病態)	
サンプルサイズ	
セッティング	
セッティング(その他)	
追跡率	
予知因子:介入/要因 暴露と対象	
エンドポイント (アウトカム)	
主な結果と結論	各国の所得税、消費税から、道路料金、資本課税など種々の税の徴収・管理にかかったコストを、調査したもの。調査対象は、アンケート調査がほとんど。
効果指数値(95%信用区間) 95%CI リスク比 統計学的 解析法	
コメント	サーベイ論文による調査では、アンケートによって税のコストを調べている。税の徴収コストを推定することは、税の効率性や有効性を議論するうえで重要なことであるといえる。もし日本でこれを行うのであれば、特定の税に為に費やされた人件費や事務作業のコストなどを、ほかのコストから峻別して、調べる必要があるといえる。日本でも同様の調査を行うことは意義があると思われる。
引用NO	009

*Obesity and the Economics of Prevention: FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (012)

文献管理番号	FNF00117
タイトル	Impact of a school-based interdisciplinary intervention on diet and physical activity among urban primary school children: eat well and keep moving
訳タイトル	
著者	Gortmaker SL, Cheung LW, Peterson KE, Chomitz G, Cradle JH, Dart H, Fox MK, Bullock RB, Sobol AM, Colditz G, Field AE, Laird N
出典	Arch Pediatr Adolesc Med
言語	
学会名	
キーワード	school-based interdisciplinary intervention
抄録	あり
PDF	

作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	森川 希
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	小学4、5年生の子どもに対する食事と身体活動の健康習慣への学際的介入の効果を評価する。
研究デザイン	学校を割り付け単位とした準実験的デザイン
エビデンスレベル	
対照患者(疾患/病態)	介入群6校と、マッチさせた対照群8校の小学校4年生と5年生。91%がアフリカ系アメリカ人。
サンプルサイズ	縦断調査開始時4年生コホート479人(介入群190人、対照群289人)、24時間思い出し法による調査対象者は336人(介入群173人、対照群162人)。横断調査は1995-1997の5年生全2103人。
セッティング	縦断調査として、介入前(1995)、フォローアップ後(1997)に実施した食物摂取頻度調査および活動量測定、24時間思い出し法による食事と身体活動調査結果を使用した。また、横断調査として1995-1997年の5年生の変化も評価した。
セッティング(その他)	
追跡率	
予知因子:介入/要因 暴露と対象	The Eat Well and Keep Moving Programは教員によって学科内で指導された。用いた教材は、総脂肪と飽和脂肪酸摂取を減らすこと、果物と野菜の摂取を増やすこと、テレビを見る時間を減らし身体活動を増やすことを中心としたものであった。対照群は、このプログラムのものではない通常の健康教育教材を使用した。
エンドポイント (アウトカム)	繰り返し実施した24時間思い出し法による食事摂取量と身体活動量、自記式質問紙による食物摂取頻度および活動量調査結果を合わせて主要アウトカムとした。
主な結果と結論	ベースライン値(性別、人種、エネルギー摂取量)を調整後、介入群は対照群に対し総脂肪と飽和脂肪酸の総エネルギー比率の減少、果物と野菜摂取量、ビタミンC摂取量、食物繊維摂取量の増加が認められた。テレビ視聴時間もわずかに減少した。縦断調査、横断調査の食物摂取頻度調査結果は同様で、総脂肪と飽和脂肪酸のエネルギー比率は減少していた。
効果指数値(95%信用区間) リスク比 95%CI 統計学的 解析法	対照群と比較した介入群の総脂肪エネルギー比率-1.4%; 95%信頼区間-2.8~-0.04; P=0.04、飽和脂肪酸エネルギー比率-0.60%; 95%信頼区間-1.2~-0.01; P=0.05、果物と野菜摂取量0.36サービング; 95%信頼区間0.10~0.62; P=0.01、ビタミンC摂取量8.8mg/4184kj; 95%信頼区間2.0~16; P=0.01、食物繊維摂取量0.7g/4184kj; 95%信頼区間-1.04~0.04; P=0.06、テレビ視聴時間-0.55時間/日; 95%信頼区間-1.04~0.04; P=0.06 栄養素摂取量、果物・野菜摂取量は総エネルギー摂取量で調整し、介入効果の評価にあたってはベースラインの総エネルギー摂取量を共変量に含めた。
コメント	介入群、対照群の割り付けは無作為化されていない。健康教育介入ではやむを得ないと思われる。介入効果の評価で最も困難なのが食事摂取状況の調査と思われる。食物摂取頻度調査は、対象者、調査者ともに負担が少なく大規模調査に適した方法である。摂取頻度で把握された調査結果を用いて栄養素等摂取量を定量的に評価することは本来不適切とされるが、本報告では24時間思い出し法と同様の結果が出ているため、健康教育現場での簡易な評価方法として採用できるかもしれない。
引用NO	C6-12

*Obesity and the Economics of Prevention: FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (014)

文献管理番号	FNF00119
タイトル	A dietitian-delivered group nutrition program leads to reductions in dietary fat, serum cholesterol, and body weight: the Worcester Area Trial for Counseling in Hyperlipidemia (WATCH)
訳タイトル	
著者	Hebert JR, Ebbeling CB, Ockene IS, Ma Y, Rider L, Merriam PA, Ockene JK,
出典	J Am Diet Assoc
言語	
学会名	
キーワード	delivered group nutrition program
抄録	あり
PDF	

作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	森川 希
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	高脂血症患者に対する栄養士による栄養相談と栄養教育プログラムの効果を評価する。
研究デザイン	医師による無作為介入(引用文献21、FNF00123)を補完するものとして、4回のセッションからなるプログラムを実施した。
エビデンスレベル	
対照患者(疾患/病態)	マサチューセッツ州ファロンクリニックの高脂血症患者。1992.1-1993.12の24ヵ月間の受診者。20-65歳、服薬治療あるいは最近栄養指導を受けていない者で、心疾患(CHD)既往がなく、性、年齢、季節で調整後の総コレステロール値上位25%の者。
サンプルサイズ	リクルートされた1162人のうち、十分な解析データの得られた645人を本研究の対象とした。
セッティング	1991-1995のWorcester-Area Trial for Counseling in Hyperlipidemia(WATCH)の中で実施された。
セッティング(その他)	
追跡率	
予知因子:介入/要因 暴露と対象	4回の栄養士によるプログラムは全6週間で、45分間の個別相談、2時間にわたるグループセッション2回、最終の個別フォローアップセッションの流れで実施した。プログラム内容は、行動理論モデルに基づいた、総脂肪、飽和脂肪、コレステロール摂取量を減らすための実際的なスキルを重視した栄養教育であった。
エンドポイント (アウトカム)	ベースラインと1年後に測定した総脂肪および飽和脂肪摂取量、血中LDLコレステロール、体重。食事内容は7日間食事思い出し法(7DDR)により調査した。
主な結果と結論	3-4回の栄養セッションに参加した対象者は、3回未満もしくは全く参加しなかった対象者に比べ測定値が有意に低下していた。3-4回参加群は、ベースラインから1年後で飽和脂肪のエネルギー比率はおよそ22%変化していた。本研究により、高脂血症患者に対する栄養士による介入効果の経験的データが示された。
効果指数値(95%信用区間) 95%CI 統計学的 解析法	栄養セッションに3-4回、3回未満、0回参加者の1年後の総脂肪摂取量(E%,平均±標準偏差)-8.2±1.4、-5.0±1.4、-0.7±0.4; P<0.05(3-4回vs0回、3回未満vs0回) 飽和脂肪摂取量(E%,平均±標準偏差)-2.7±0.5、-2.1±0.5、-0.3±0.1; P<0.05(3-4回vs0回、3回未満vs0回) 総コレステロール(mmol/L)-4.43±0.13、-0.15±0.12、0.01±0.03; P<0.05(3-4回vs0回) LDLコレステロール(mmol/L)-0.48±0.11、-0.13±0.11、-0.02±0.03; P<0.05(3-4回vs0回、3-4回vs3回未満) 体重(kg)-4.5±0.9、-2.1±0.8、-1.1±0.2; P<0.05(3-4回vs0回、3-4回vs3回未満) BMI(kg/m <sup>2</sup> )-1.6±0.3、-0.8±0.3、-0.4±0.1; P<0.05(3-4回vs0回)
コメント	食事調査に用いられた7日間思い出し法7-day dietary recall(7DDR)はあまり知られていない。24時間思い出し法よりは、食物摂取頻度調査を通常(過去1-2ヵ月)より短期間について実施するイメージではないと思われる。
引用NO	C6-14



*Obesity and the Economics of Prevention: FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (017)

文献管理番号	FNF00182
タイトル	The Child and Adolescent Trial for Cardiovascular Health (CATCH)
訳タイトル	小児・思春期の心臓血管病ヘルストライアル
著者	Luepker RV ら
出典	J Nutr Biochem 9:525-534,1998
言語	英語
学会名	
キーワード	心臓血管病、栄養、身体活動、喫煙、青年期、学校保健
抄録	あり
PDF	

作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	島袋充生
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	小児医学
目的	小児・思春期の食事、運動プログラムの心臓血管病予防におよぼす効果を明らかにする。
研究デザイン	RCT
エビデンスレベル	Ib (少なくとも一つのランダム化比較試験)
対照患者(疾患/病態)	4つの地域センター(UCSD, UM, UTH, and Tulane University School of Public Health and Tropical Medicine)、NERI センター、NHLBI事務所を含む。地域センターから最低90分/週の運動指導を3年間実施できる施設。指導群と対象群に無作為割り付け。初回登録は、12地区の96公立校から、5106名の3年生(平均8.76才)で、試験開始前、介入後採血に同意。
サンプルサイズ	5106名の3年生(平均8.76才)
セッティング	介入群 (56校; 14校/センター) と対照群 (40校; 10校/センター)に割り付け。介入群はさらに2群に割り付け: 学校基盤プログラム(学校給食、運動指導、CATCH カリキュラム、28校、7校/センター)、学校基盤+家族基盤プログラム(28校、7校/センター)。CATCH カリキュラムは1991-1992に始まり5年(1993-1994)まで続けた。対照群は、CATCH カリキュラム以外の一般的な健康、運動、食事プログラムを受講した。詳細は Controlled Clin.Trials 1995:16,96-118、Cardiovasc.RiskFactors 1992:2,36-44.
セッティング(その他)	なし
追跡率	79% (4019of5106).
予知因子:介入/要因 暴露と対象	The Health Behavior Questionnaire (HBQ) 、A 24-HourDietary Recal masured total daily food and nutrient intake
エンドポイント (アウトカム)	脂肪からのエネルギー摂取、運動強度。
主な結果と結論	①介入群では、脂肪からのエネルギー摂取は38.7%から30.3%へ低下(対照群では38.9%から36.2%、 $p<0.001$ )。②介入群では、運動強度 intensity of physical activity が増加した(一日運動量 58.6 vs 46.5分, $p<0.003$ )。血圧、体格、コレステロール、身体発育に有意差なし。CATCH プログラムは、学校給食からの脂肪摂取を減らし、運動量をあげ、3年間の食事型、活動性を改善できる。
効果指数値(95%信用区間) リスク比 95%CI 統計学的 解析法	該当なし
コメント	外的、内的な交絡要因を、無作為割り付けによりできるだけ除外し、ある特定の食事、運動プログラムの有効性を評価した研究。マルチセンターで3年間の長期にわたり観察した検討であり、妥当性があり他の介入研究においても参考になる点が多い。一方で身体測定値や代謝指標に差が無いことから、プログラムの目ざすメタボリック指標の改善と健康指標の改善が真に有効なものか、さらなる検討がまたれる。
引用NO	

*Obesity and the Economics of Prevention: FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (018)

文献管理番号	FNF00120
タイトル	Development of WHO guidelines on generalized cost-effectiveness analysis
訳タイトル	一般化費用対効果分析のWHOガイドラインの開発
著者	Murray CJL, Evans DB, Acharya A, Baltussen RM
出典	Health Econ. 9: 235-251 (2000)
言語	英語
学会名	
キーワード	cost-effectiveness analysis; guidelines; resource allocation
抄録	あり
PDF	
作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	佐藤敏彦
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	新たな医療技術や保健施策が従来のものと比較しより効果的かどうかを検討する上で費用対効果分析は有用である。一般にこの分析は単一の技術や施策に対して行われるが、実社会においては新たに追加されるなどして組み合わせで用いられるのが通常であるため、従来の費用対効果分析手法では不十分である。そこで本論文ではこのような課題を解決するためにWHOが開発した一般化費用対効果分析を提案する。
研究デザイン	レビュー
エビデンスレベル	N/A
対照患者(疾患/病態)	N/A
サンプルサイズ	N/A
セッティング	N/A
セッティング(その他)	N/A
追跡率	N/A
予知因子:介入/要因 暴露と対象	N/A
エンドポイント (アウトカム)	N/A
主な結果と結論	一般化費用対効果分析では、複数の介入法のそれぞれの費用対効果比に加えて、ある介入に加えて別の介入を追加した場合の費用対効果比も合わせて分析し、表を作成することとしている。このような分析は予算分配のさまざまな状況において有用である。
効果指数値(95%信用区間) リスク比 95%CI 統計学的 解析法	N/A
コメント	概念の紹介であり、考え方が有用であることは理解できるが、実際にどのように分析を行うのかについての説明がない。
引用NO	C6-35

*Obesity and the Economics of Prevention: FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (020)

文献管理番号	FNF00122
タイトル	Could targeted food taxes improve health?
訳タイトル	食品税は健康改善をもたらすのか？
著者	Mytton O, Gray A, Rayner M, Rutter H
出典	Journal of Epidemiol Community Health (2007), Vol. 61, No. 8, pp. 689-94
言語	英語
学会名	
キーワード	Taxation
抄録	あり
PDF	

作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	比佐章一
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	イギリスにおける付加価値税が、栄養摂取や健康および食料支出に与える影響を調査
研究デザイン	
エビデンスレベル	
対照患者(疾患/病態)	国民食生活調査の個票データ
サンプルサイズ	
セッティング	
セッティング(その他)	
追跡率	
予知因子:介入/要因 暴露と対象	
エンドポイント (アウトカム)	
主な結果と結論	肥満をもたらす食品への課税は、課税によって塩分の高い食品への消費を増加させるため、心血管性の病気を減らす効果をもたらさない。また不健康な食品への課税は、塩分摂取を減らすことで、年間2300人の死を避けることができるであろう。広範囲にわたる食料品への課税は、年間3200人の新血管性の病気を減らすことができる。
効果指数値(95%信用区間) 95%CI	リスク比 統計学的 解析法
コメント	この研究では、肥満をもたらす食品と塩分の高い食品とのあいだの代替性の高さを指摘しており、今後の研究の課題として重要なものと思われる。この研究は、おそらく個票レベルでの調査であると思われる。こうしたデータは、目的外申請をしなくては分析できないとおもわれる。
引用NO	020

*Obesity and the Economics of Prevention:FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (021)

文献管理番号	FNF00123
タイトル	Effect of training and a structured office practice on physician-delivered nutrition counseling: the Worcester-Area Trial for Counseling in Hyperlipidemia (WATCH)
訳タイトル	
著者	Ockene IS, Hebert JR, Ockene JK, Merriam PA, Hurley TG, Saperia GM
出典	Am J Prev Med
言語	
学会名	
キーワード	physician-delivered nutrition counseling
抄録	あり
PDF	

作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	森川 希
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	医師による栄養相談のための教育プログラムと、栄養管理のための構造化された作業環境を加えた教育プログラムの効果を検証する。
研究デザイン	無作為化比較試験
エビデンスレベル	
対照患者(疾患/病態)	マサチューセッツ州ファロンクリニックのコレステロール分布上位25%の者
サンプルサイズ	45人の内科医師とその患者1278人。そのうちランダム抽出された325人の患者がインタビュー調査の対象となった。
セッティング	医師は、通常のケア(1群,n=14)、栄養相談トレーニング(2群,n=17)、栄養相談トレーニングに栄養管理のための構造化作業環境(検査結果と相談アルゴリズムの提供)を与えられた状況(3群,n=14)に無作為に振り分けられた。無作為に選ばれた325人の患者に、医師からどのような助言を受けたか、特別な計画や目標について話し合ったか、教材提供、栄養士へ紹介があったか等をインタビューした。
セッティング(その他)	
追跡率	
予知因子:介入/要因 暴露と対象	栄養相談トレーニングは、2.5時間の少人数グループセッションを2週間と、30分の個別指導を実施した。構造化作業環境は、患者に待合室で予め簡単な食事調査を記入してもらい、患者の脂質検査結果を提供され、食事アセスメントと介入アルゴリズムを用いて指導し、患者に食事の目標やレシピ、外食のポイントなどを含む資料を渡す一連の流れを構造化したものである。栄養相談トレーニングのみの群もこの流れを利用するが、当研究(WATCH)アルゴリズムによらず、検査結果の中から脂質の項目を見つけたり、食事調査結果の管理等を自力で行なった。
エンドポイント (アウトカム)	患者への10項目のインタビュー(patient exit interview, PEI)
主な結果と結論	栄養相談トレーニングに構造化作業環境を追加された医師が、栄養相談過程において他の2つの条件と比較して顕著に有意な遂行状況を示した。栄養サービスへの紹介は栄養相談トレーニングのみの群で減少した。構造化作業環境の群では教育から2年後もPEIスコアが安定していた。一次医療において、相談技術のトレーニングと支援的作業環境の両方が整っていることが、患者相談を適切化した。トレーニングのみでは十分でなく、逆効果である。
効果指数値(95%信用区間) リスク比 95%CI 統計学的 解析法	調整後PEIスコア(10点満点、平均±標準偏差)1群4.09±0.38、2群4.05±0.73、3群6.28±0.27; P<0.0001
コメント	
引用NO	C6-21

*Obesity and the Economics of Prevention: FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (023)

文献管理番号	FNF00124
タイトル	Changing fruit and vegetable consumption among children: the 5-a-Day Power Plus program in St. Paul, Minnesota
訳タイトル	
著者	Perry CL, Bishop DB, Taylor G, Murray DM, Mays RW, Dudovitz BS, Smyth M, Story M
出典	Am J Public Health
言語	
学会名	
キーワード	fruit and vegetable consumption
抄録	あり
PDF	
作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	森川 希
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	子どもたちの果物と野菜の摂取を増やすことを目的とした、学校ベースの多様なアプローチ(The 5-a-Day Power Plus Program)を評価する。
研究デザイン	学校を割り付け単位とした無作為化比較試験
エビデンスレベル	
対照患者(疾患/病態)	St. Paulの20の小学校(介入群、対照群各10校)における、1995年春の小学4年生、秋の小学5年生。1.3%がネイティブ・アメリカン、6.4%がヒスパニック、19.1%がアフリカ系アメリカ人、25.2%がアジア系アメリカ人、48%が白人。
サンプルサイズ	1995年に登録した20校1750人の児童のうち、1612人(92.1%)が質問紙調査を完了した。ここから657人が無作為に選ばれ食事調査の対象となった。652人がランチタイムの観察対象となり、580名が食事記録を提出した。そのうち536名は24時間思い出し法による食事調査を完了し、うち441人がフォローアップ時の24時間思い出し調査を完了した。 384人の親がインタビュー調査に応じ、うち324名がフォローアップ時のインタビュー調査に応じた。
セッティング	1995年3月に4年生へ介入、同年10月と翌年1月に5年生に介入。
セッティング(その他)	
追跡率	
予知因子:介入/要因 暴露と対象	介入は、教室における行動カリキュラム、親子の関与、フードサービスの変化、産業との連携の4要素からなる。教室でのカリキュラムは、40-45分のセッションを週に2回、8週間にわたり、能力向上と問題解決のための活動、および軽食の準備や試食を含む内容であった。そして4・5年生それぞれに適応した親子参加プログラム、昼食を利用したフードサービス介入が食品産業と連携して行われた。
エンドポイント (アウトカム)	ランチルーム観察、24時間思い出し法による食品摂取量の測定結果を評価した。親への電話調査と、健康行動質問紙調査により心理社会的要因を測定した。
主な結果と結論	介入によりランチタイムの果物摂取量と、果物および野菜摂取量、女子では野菜摂取量と、総エネルギーに対する果物と野菜の摂取量が増加した。
効果指数値(95%信用区間) リスク比 95%CI 統計学的 解析法	ランチタイム観察による介入群・対照群の差は、果物・野菜摂取量0.47サービング; 95%信頼区間0.21~0.72; P=0.00、果物摂取量0.30サービング; 95%信頼区間0.13~0.46; P=0.00、野菜摂取量0.16サービング; 95%信頼区間-0.07~0.39; P=0.17、 24時間思い出し法による介入群・対照群の差は、果物・野菜摂取量0.58サービング; 95%信頼区間-0.15~1.31; P=0.14、果物摂取量0.62サービング; 95%信頼区間0.10~1.14; P=0.02、野菜摂取量-0.02サービング; 95%信頼区間-0.43~0.48; P=0.92
コメント	食事記録は、対象者の協力を得るのが難しく、24時間思い出し法は熟練した栄養士による聞き取りが要求される。 5-a-dayキャンペーン等で使用されている「サービング」の概念は、本邦では2005年に策定された「食事バランスガイド」におけるSV(つ)と同様のものである。しかしながら、「食事バランスガイド」では野菜の種類や調理方法までは示されないこと、果物の摂取を推奨している点で、肥満等の生活習慣病対策としては活用しにくい場合もある。
引用NO	C6-12

*Obesity and the Economics of Prevention: FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (024)

文献管理番号	FNF00125
タイトル	Food prices and obesity: evidence and policy implications for taxes and subsidies
訳タイトル	食品価格と肥満症の関係: 課税・補助金の効果と政策的含意
著者	Powell LM, Chaloupka FJ
出典	The Milbank Quarterly, Vol. 87, No. 1, 2009, pp.229-57
言語	英語
学会名	
キーワード	Food prices and obesity
抄録	あり
PDF	

作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	比佐章一
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	エネルギーが高く不健康な食品の価格をあげたり、健康的でエネルギーが低い食品の価格を補助金で下げるなどして、人々の消費行動を変化させることで、体重に影響を与え、それにより健康状態を改善することができるかどうかを明らかにする研究のサーベイ論文
研究デザイン	
エビデンスレベル	
対照患者(疾患/病態)	Medline, PubMed, Econlit, PAISなどのデータベースから、関連する論文を集め、要約したもの
サンプルサイズ	
セッティング	
セッティング(その他)	
追跡率	
予知因子:介入/要因	暴露と対象
エンドポイント (アウトカム)	
主な結果と結論	税金や補助金の効果は、その規模が小さいと、効果が限定的。しかし介入の規模が大きいと、所得階層の低く肥満リスクの高い子供や青年に特に有効に効くことが判明。
効果指数値(95%信用区間) リスク比 95%CI 統計学的 解析法	
コメント	サーベイ論文による調査では、所得階層の低い人々に有効であることが判明しているが、逆に言えば肥満税が逆進的な税制になる可能性があることを示唆するものである。これを回避するためには、低所得層に対しては、肥満をもたらす食品に課税をする一方で、健康的な食品に補助を与えるなどの制作が有効であるといえる。また低所得者のために、食品の消費税率を低くするという政策を行うのであれば、肥満をもたらす食品の税率は高水準にし、健康な食品だけを低税率にするなどの政策を考える必要があるかもしれない。
引用NO	024

*Obesity and the Economics of Prevention: FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (025)

文献管理番号	FNF00126
タイトル	Nutritional counselling in general practice: a cost effective analysis
訳タイトル	
著者	Pritchard DA, Hyndman J, Taba F
出典	J Epidemiol Community Health
言語	
学会名	
キーワード	Nutritional counselling
抄録	あり
PDF	

作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	森川 希
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	過体重、高血圧、2型糖尿病のいずれかもしくは複数を併せ持つ患者への栄養相談の効果と費用を検証する。
研究デザイン	無作為化比較試験
エビデンスレベル	
対照患者(疾患/病態)	過体重(BMI25以上)、高血圧(140/90mmHg以上)、糖尿病のいずれか1つ以上の所見がある、25-65歳。78%が社会経済的下層の下位四分位に属し、56%が家で働き、78%はパートナーがいた。
サンプルサイズ	273人。すべてのセッションを完了したのは177人(65%)。
セッティング	ウエスタン・オーストラリア州パース郊外の社会経済的弱者への一般診療の場で実施された。対象者は医師/栄養士の介入、栄養士のみ介入、対照群のいずれかに無作為に割り付けられた。
セッティング(その他)	
追跡率	
予知因子:介入/要因 暴露と対象	栄養士による介入群では、リクルート後12カ月にわたり等間隔で6回の相談を実施した。相談内容は買い物、調理方法、食品選択、食事計画、運動プログラムを含むものであり、総エネルギー制限、脂質割合が30%を超えないこと、禁煙、節酒等が推奨された。 医師/栄養士による介入群は、同様の栄養相談に加えて、患者が12カ月間同じ医師に会うようにし、進捗状況を共有するようにした。 対照群では、患者が予約した医師から助言を受け、栄養士による相談は実施されなかった。
エンドポイント (アウトカム)	体重および平均血圧の変化。
主な結果と結論	介入群ではいずれも対照群と比較し体重、血圧が低下した。医師/栄養士群では、平均6.7kg減量するのに\$A9.76/kg、栄養士群では5.6kgの減量に\$A7.30/kgの費用が必要であった。一般の現場では、栄養士と連携することで体重と血圧の有意な改善が期待される。
効果指数値(95%信用区間) リスク比 95%CI 統計学的 解析法	スクリーニング時からの体重変化量(%、95%信頼区間)はコントロール群と比較し医師/栄養士介入で-7.3; 95%CI6.5-8.3、栄養士介入群で-6.6; 95%CI5.8-7.6 収縮期血圧変化量(%、95%信頼区間)はコントロール群と比較し医師/栄養士介入で-12; 95%CI9-15、栄養士介入群で-7; 95%CI4-10
コメント	
引用NO	C6-25

*Obesity and the Economics of Prevention: FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (026)

文献管理番号	FNF00127
タイトル	Increasing the fruit and vegetable consumption of fourth-graders: results from the high 5 project
訳タイトル	
著者	Reynolds KD, Franklin FA, Binkley D, Raczynski JM, Harrington KF, Kirk KA, Person S
出典	Prev Med
言語	
学会名	
キーワード	fruit and vegetable consumption
抄録	あり
PDF	

作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	森川 希
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	小学4年生の果物と野菜の摂取量を増加させるための学校ベースの食事介入プログラムの効果を評価する。
研究デザイン	学校を割り付け単位とした無作為化比較試験
エビデンスレベル	
対照患者(疾患/病態)	小学4年生、平均年齢8.7歳、50%が女性、83%がヨーロッパ系アメリカ人、16%がアフリカ系アメリカ人、1%がその他人種。
サンプルサイズ	適合基準に合致する2457家庭のうち、1698(69%)の4年生児童の家庭が調査に同意した。1年後、2年後の食事調査を完了した児童はそれぞれ89%、84%であった。
セッティング	28の小学校を、早期に介入する群と遅れて介入する群に無作為に割り付けた。食事と心理社会的要因をベースライン、1年後、2年後に調査した。
セッティング(その他)	
追跡率	
予知因子:介入/要因 暴露と対象	教室での介入、親への介入、カフェテリアでの介入からなる。教室では、モデリング、自己管理、問題解決、心理的強化、試食、その他の14回の授業で、High 5プロジェクトのために雇用したコーディネータによって行われた。親には、子どもの行動変容をサポートや、一緒に宿題本を完成させることを依頼した。カフェテリアでは、High 5ガイドラインに沿った10項目の活動状況によって、月ごとに2~4つの星で評価を受けた。
エンドポイント (アウトカム)	24時間思い出し法による介入前後7日間の食事調査結果およびそのデータから5 a Dayガイドラインに沿ってコーディングしたスコア、カフェテリア観察、親への食物摂取頻度調査結果を用いて野菜、果物摂取量(サービング数)を評価した。質問紙調査により心理社会的要因についても評価した。
主な結果と結論	1年後、2年後の果物と野菜の平均摂取量は介入群で対照群に比較して高かった。主要栄養素および微量栄養素も、介入群で1年後、2年後ともに改善していた。果物と野菜の平均摂取量は介入群の親で1年後に多かったが、2年後はそうでなかった。
効果指数値(95%信用区間) 95%CI 統計学的 解析法	1年後の果物摂取量(サービング、95%信頼区間)は、介入群1.71(1.45-1.99); 対照群0.83(0.63-1.04); P<0.0001、野菜摂取量は介入群1.84(1.61-2.09); 対照群1.15(0.95-1.35); P<0.0001 2年後の果物摂取量(サービング、95%信頼区間)は、介入群1.21(1.01-1.41); 対照群0.65(0.50-0.82); P<0.0001、野菜摂取量は介入群1.60(1.42-1.79); 対照群1.25(1.08-1.43); P<0.009 1年後の総脂質エネルギー比率(%、95%信頼区間)は、介入群30.93(29.84-32.02); 対照群33.37(33.26-34.49); P<0.003、飽和脂肪エネルギー比率は介入群11.07(10.60-11.54); 対照群12.00(11.51-12.49); P<0.009 2年後の総脂質エネルギー比率(%、95%信頼区間)は、介入群31.56(30.45-32.66); 対照群33.23(32.08-34.37); P<0.0402、飽和脂肪エネルギー比率は介入群11.49(11.04-11.94); 対照群12.24(11.77-12.71); P<0.0249 1年後の食物繊維摂取量(g、95%信頼区間)は介入群11.32(10.66-12.02); 対照群9.69(9.10-10.31); P<0.0010 2年後の食物繊維摂取量(g、95%信頼区間)は介入群10.68(9.89-11.54); 対照群9.23(8.52-10.00); P<0.0119
コメント	児童に対し、7日間(対面5日間、電話2日間)の24時間思い出し法による食事調査を実施しており、大変なマンパワーが必要であったと考えられる。
引用NO	C6-26



*Obesity and the Economics of Prevention: FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (027)

文献管理番号	FNB00055
タイトル	The Prevention of Lifestyle-Related Chronic Diseases: An Economic Framework
訳タイトル	
著者	Sassi F, J. Hurst
出典	OECD Health Working Paper, No. 32. Paris: OECD Publishing; 2008
言語	英語
学会名	
キーワード	Economic Framework
抄録	あり
PDF	

作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	比佐章一
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	慢性疾患の予防を経済的見地からどのように分析をすべきかを議論する。経済学的には、この予防措置が社会厚生を引き上げるかどうかを議論する。
研究デザイン	
エビデンスレベル	
対照患者(疾患/病態)	
サンプルサイズ	
セッティング	
セッティング(その他)	
追跡率	
予知因子:介入/要因 暴露と対象	
エンドポイント (アウトカム)	
主な結果と結論	この論文では、新古典派経済学者によって行われる、合理的中毒と同様、肥満になることを分かっ ていてそれをあえて選んでいるのではという批判に対して、健康およびそれによる労働生産性の外 部効果や、情報の失敗による人々の合理性の問題、またHyperbolicな時間選好率による時間的 非整合性などの問題によって、政府などによる健康への政策的介入の正当化を指摘している。また政 策手段として、喫煙や食品への課税、果物や野菜に対する補助などの妥当性を提示している。また 社会厚生としてDALYやQALYなどについて議論している。
効果指数値(95%信 用区間) リスク比 95%CI 統計学的 解析法	
コメント	この研究では、外部性や情報の失敗、行動経済学の立場からのHyperbolicな時間選好率による時 間的非整合性など、示唆に富む指摘がなされている。健康政策のような政府の介入を否定する立場 に対して、もしこのようなフレームワークで議論ができるのであれば、それなりに意義がある帰結が 得られると思われる。
引用NO	027

*Obesity and the Economics of Prevention: FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (028)

文献管理番号	FNB00056
タイトル	Improving Lifestyles, Tackling Obesity: The Health and Economic Impact of Prevention Strategies
訳タイトル	ライフスタイルの改善と肥満への取り組み: 予防戦略の健康と経済へのインパクト
著者	Sassi F, Cecchini, J. Lauer, D. Chisholm
出典	OECD Health Working Paper No. 48. Paris: OECD Publishing; 2009
言語	英語
学会名	
キーワード	The Health and Economic Impact
抄録	あり
PDF	

作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	比佐章一
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	肥満とそれに伴う慢性疾患に対する政策に対する、費用対効果と分配への効果の評価についての議論
研究デザイン	
エビデンスレベル	
対照患者(疾患/病態)	
サンプルサイズ	
セッティング	
セッティング(その他)	
追跡率	
予知因子:介入/要因 暴露と対象	
エンドポイント (アウトカム)	
主な結果と結論	肥満は複数の要因で決まるものであり、すべての年齢層の人々や社会階層の人々に影響を与えることから、特定の階層に目標を定めるような政策は、その効果が限定的となる。また若年層にターゲットを絞った政策も、社会的には有効とはいえない。また費用・便益分析による分析では、政府による介入政策は、短期的にはその効果がみられないが、長期に政策を行うことで効果が出てくるものといえる。
効果指数値(95%信用区間) リスク比 95%CI 統計学的 解析法	
コメント	他の先行研究では、税制・補助金などの政策では、低所得層の人々に対して有効性が確認されているが、この論文では、こうした政策だけを実施するのは好ましくないといえる。複数の政策をミックスさせることで、政策の効果が広範にわたるようにすることが重要であるといえる。
引用NO	028

*Obesity and the Economics of Prevention:FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (035)

文献管理番号	FNF00133
タイトル	Do nutrition labels improve dietary outcomes?
訳タイトル	栄養表示は食習慣を改善するのか？
著者	Variyam JN
出典	Health Economics (2008), Vol. 17, No. 6, pp.695-708
言語	英語
学会名	
キーワード	nutrition labels
抄録	あり
PDF	

作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	比佐章一
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	米国の栄養表示法が人々の食品接種の行動にどのような影響を与えたかを検証すること。
研究デザイン	外食に対する食品表示が食行動を変化させたかどうかを、個人の消費行動データを用いて分析。方法としては、外食と家庭内の食事の摂取内容が、異なるかどうかで、分析を行っている。
エビデンスレベル	
対照患者(疾患/病態)	
サンプルサイズ	1994-1996年の個人別食物摂取継続調査をもとに、9664世帯を調査
セッティング	Difference-In-Difference
セッティング(その他)	
追跡率	
予知因子:介入/要因 暴露と対象	
エンドポイント (アウトカム)	
主な結果と結論	ラベルの表示の効果は、食物繊維や鉄分の摂取に対して有効であったことが分かった。特に朝食のシリアルに関しては、食品表示が有効に聞いていることが分かった。
効果指数値(95%信用区間) リスク比 95%CI 統計学的 解析法	
コメント	
引用NO	035

*Obesity and the Economics of Prevention: FIT NOT FAT*

第6章 主要文献構造化抄録 引用番号 (036)

文献管理番号	FNB00058
タイトル	Nutrition Labels and Obesity
訳タイトル	栄養水準と肥満
著者	Variyam JN, J. Cawley
出典	NBER Working Paper No. 11956. Cambridge, MA: 2006
言語	英語
学会名	
キーワード	Nutrition Labels
抄録	あり
PDF	

作業	構造化抄録
Chapter	Chapter6
作成者	比佐章一
分類	
番号	
担当者	
研究領域	
研究領域(その他)	
目的	食品ラベル表示による情報提供(NLEA)を義務化する法律が、体重や肥満に与えた影響を分析
研究デザイン	
エビデンスレベル	
対照患者(疾患/病態)	米国民健康調査の18歳以上の成人
サンプルサイズ	、毎年36000から47000世帯(92000から125000人)による、各年のアンケート調査 対象年 1991-1998年
セッティング	Difference-In-Difference
セッティング(その他)	
追跡率	
予知因子:介入/要因 暴露と対象	
エンドポイント (アウトカム)	
主な結果と結論	食品ラベル表示による情報提供(NLEA)を義務化する法律が、非ヒスパニック系の白人女性にのみ有効であることが判明。その経済的利益は、死亡率や医療支出の低下、欠勤の減少、生産性の向上などで考えると、20年間で166百ドル(1991年価格)と見込まれる。
効果指数値(95%信用区間) リスク比 95%CI 統計学的 解析法	
コメント	アメリカの各家計別のアンケート調査を用いており、日本でもしこれを実施するとすれば、総務省の家計調査ないし厚生労働省の国民健康・栄養調査の個票データを使用する必要がある。この調査で使われたDifference-In-Differenceという手法は、同一家計の行動を長期にわたって入手できない時に、似たようなデータをマッチングさせて比較する手法であり、異なる時点での短期のアンケート調査のデータを、有効な手法である。もし日本で個票の目的外申請を行ってこれらのデータが入手できるのであれば、同様の手法を使って分析をすることができると言える。
引用NO	036